



ネットワーク モニタリングの設定

Prime Infrastructure インベントリにデバイスを追加してデバイスとポートグループを設定した後、モニタリング テンプレートを作成し、グループ内の有線デバイスについて、デバイスの状態 (CPU、メモリ、インターフェイスの使用率など)、基本的な QoS、VPN トンネル統計情報をモニタします。モニタリング テンプレートを作成して適用すると、Prime Infrastructure は指定されたデバイスからデータを収集して処理し、ダッシュボード、ダッシュレット、およびレポートに情報を表示します。

- [ポート グループとインターフェイスのモニタリング](#)
- [Cisco Identity Services Engine \(ISE\) との統合による拡張クライアント情報の取得](#)
- [Prime Infrastructure と Prime Insight との統合](#)
- [パフォーマンス モニタリングに対する保証のセットアップ](#)

ポート グループとインターフェイスのモニタリング

デバイス ポートをモニタするには、ポート グループを作成し、モニタリング情報を Prime Infrastructure のダッシュボードに表示します。ポート グループとはインターフェイスの論理グループであり、提供される機能によってデバイス ポートをモニタできます。たとえば、WAN ポート用のポート グループを作成し、同じルータ上の内部分散ポート用に別のポート グループを作成できます。

ポート グループの作成については、「[グループのタイプ](#)」および「[デバイス コンテキストまたはグループのコンテキスト ポート グループの作成](#)」を参照してください。

グループを作成したら、次のステップの説明に従って、それらのポートのインターフェイス ヘルス モニタリング ポリシーを作成できます。

- ステップ 1 [モニタ (Monitor)] > [モニタリングツール (Monitoring Tools)] > [モニタリング ポリシー (Monitoring Policies)] を選択します。
- ステップ 2 [ポリシー (Policies)] で [自動モニタリング (Automonitoring)] を選択します。
- ステップ 3 [WAN インターフェイス (WAN Interfaces)] の横にある展開アイコンをクリックします。
- ステップ 4 モニタする属性 (インターフェイスのアベイラビリティ、インターフェイス受信エラー、インターフェイス発信エラー、入力使用率、出力使用率など) を選択し、[保存してアクティブにする (Save and Activate)] をクリックします。
- ステップ 5 [マイ ポリシー (My Policies)] をクリックします。
- ステップ 6 [追加 (Add)] をクリックします。

- ステップ 7 [ポリシー タイプ (Policy Types)] で [インターフェイス状況 (Interface Health)] を選択します。
- ステップ 8 [デバイス選択 (Device Selection)] ドロップダウンリストから、[ポート グループ (Port Group)] を選択します。
- ステップ 9 [ユーザ定義 (User Defined)] を選択し、[OK] をクリックします。
- ステップ 10 ポリシー名を入力します。
- ステップ 11 必要なパラメータとしきい値を選択し、必須フィールドに入力します。
- ステップ 12 [OK] をクリックします。
- ステップ 13 [保存してアクティブにする (Save and Activate)] をクリックします。
- ステップ 14 結果を表示するには、[ダッシュボード (Dashboards)] > [概要 (Overview)] > [ネットワーク インターフェイス (Network Interface)] を選択し、[上位 N 件のインターフェイス使用率 (Top N Interface Utilization)] ダッシュレットを表示します。
- ステップ 15 [上位 N 件のインターフェイス使用率 (Top N Interface Utilization)] ダッシュレットを編集し、以前に作成したポート グループを追加します。

関連項目


- [WAN インターフェイス モニタリングの設定](#)
- [グループのタイプ](#)
- [デバイス コンテキストまたはグループのコンテキスト ポート グループの作成](#)

WAN インターフェイス モニタリングの設定

WAN インターフェイス ポート グループを作成すると、特定のポート グループ内のあらゆる WAN インターフェイスを効率的にモニタできます。たとえば、多数の小規模ブランチ オフィスで低帯域幅の問題が生じている場合は、各ブランチ オフィスからの WAN インターフェイスをすべて含むポート グループを作成し、問題についてこのポート グループをモニタします。

Prime Infrastructure には、デフォルトとして、スタティック WAN インターフェイス ポート グループが用意されており、このグループにはヘルス モニタリングが自動的に展開されます。下記の手順は、次の作業の実行方法を示しています。

1. WAN インターフェイス ポート グループにインターフェイスを追加する。
2. [サイト (Site)] ダッシュボードから WAN インターフェイスの使用率と可用性を確認する。

- ステップ 1 WAN インターフェイス ポート グループにインターフェイスを追加するには:
- a. [インベントリ (Inventory)] > [グループ管理 (Group Management)] > [ポート グループ (Port Groups)] の順に選択します。
 - b. 左側のメニューで、[システム定義済み (System Defined)] > [WAN インターフェイス (WAN Interfaces)] を選択します。
 - c. デバイスを選択して、[グループに追加 (Add to Group)] をクリックします。
- ステップ 2 結果を表示するには:
- a. [ダッシュボード (Dashboard)] > [概要 (Overview)] >  > [ダッシュレットを追加 (Add Dashlets)] の順に選択します。
 - b. 次のいずれかをクリックします。

- [使用率がトップ N の WAN インターフェイス (Top N WAN Interfaces by Utilization)]
- [問題数がトップ N の WAN インターフェイス (Top N WAN Interfaces with Issues)]

Cisco Identity Services Engine (ISE) との統合による拡張クライアント情報の取得

Prime Infrastructure は、ネットワーク上の有線クライアントとワイヤレス クライアントの両方を管理します。Cisco ISE を RADIUS サーバとしてクライアント認証に使用する場合、Prime Infrastructure は Cisco ISE からクライアントに関する追加情報を収集し、すべてのクライアント関連情報を取り込んで 1 つのコンソールに表示できるようにします。

ネットワーク内でポスチャ プロファイリングが実施されている場合、Prime Infrastructure は Cisco ISE と通信してクライアントのポスチャ データを取得し、クライアントの他の属性とともに表示します。Cisco ISE を使用してネットワーク内のクライアントやエンドポイントのプロファイリングを行う場合、Prime Infrastructure はプロファイルされたデータを収集して、クライアントの種類 (iPhone/iPad/Android デバイス、またはその他のデバイス) を識別します。

Cisco ISE サーバまたは Cisco Secure Access Control Server (ACS) View サーバを使用して、管理対象クライアントに関する拡張情報を取得できます。

(エンドポイント情報にアクセスするために) Prime Infrastructure が ISE サーバと統合されている場合は、以下の操作を実行できます。

- エンドユーザのネットワーク セッション ステータスの確認。
- [ユーザ 360 度ビュー (User 360° View)] を使用すると、ネットワーク アクセスに対するエンドユーザの認証や許可について可能性がある問題を特定できます。
- ユーザアプリケーションとサイトの帯域使用率に関するトラブルシューティング。

Prime Infrastructure は、認証されたエンドポイントに対してのみ ISE プロファイリング属性を表示します。

関連項目

- [アイデンティティ サービス エンジンの追加](#)
- [ACS View サーバの設定](#)

アイデンティティ サービス エンジンの追加

Prime Infrastructure には最大 2 つの ISE を追加できます。ISE を 2 つ追加する場合、1 つをプライマリに、もう 1 つをスタンバイにする必要があります。スタンドアロン ノードを追加する場合は、1 つのスタンドアロン ノードのみを追加できます。2 つ目のノードは追加できません。

アイデンティティ サービス エンジンを追加するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [サーバ (Servers)] > [ISE サーバ (ISE Servers)] を選択します。
- ステップ 2 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから、[ISE サーバの追加 (Add ISE Server)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

- ステップ 3 必要なフィールドに入力したら、[保存(Save)] をクリックします。
 クレデンシャルは ISE に対してローカルなスーパーユーザ クレデンシャルでなければなりません。それ以外の場合、ISE の統合は機能しません。

ACS View サーバの設定

ISE がない場合は、Cisco ACS View サーバを Prime Infrastructure と統合できます。[ACS View サーバ(ACS View Server)] タブにアクセスするには、クレデンシャルを使用して View サーバを追加する必要があります。

Prime Infrastructure では、ACS View Server 5.1 以降のみがサポートされます。

ACS View サーバを設定するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [管理(Administration)] > [サーバ(Servers)] > [ACS View サーバ(ACS View Server)] を選択します。
- ステップ 2 [コマンドの選択(Select a command)] ドロップダウンリストから、[ACS View サーバの追加(Add ACS View Server)] を選択し、[移動(Go)] をクリックします。
- ステップ 3 追加する ACS View サーバのポート番号を入力します。(一部の ACS View サーバは、HTTPS を実行するポートを変更できません)。
- ステップ 4 ACS View サーバに設定されたパスワードを入力します。パスワードを確認します。
- ステップ 5 再試行の回数を指定します。
- ステップ 6 [保存(Save)] をクリックします。

Prime Infrastructure と Prime Insight との統合

Prime Infrastructure と Prime Insight を統合すると、ネットワークおよびアプリケーション インベントリ、アラーム、使用率、パフォーマンス、ユーザ/サービス アクティビティ データに関する詳細な分析情報を得ることができます。

Prime Infrastructure 3.0 GUI から Prime Infrastructure と Prime Insight を統合するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [管理(Administration)] > [サーバ(Servers)] > [Prime Insight Server] を選択します。
- ステップ 2 [Prime Insight の有効化(Enable Prime Insight)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 必要な詳細情報を入力して、[保存(Save)] をクリックします。
 ネットワークやアプリケーション インベントリなどの Prime Infrastructure の情報を Prime Insight で表示できるようになります。

パフォーマンス モニタリングに対する保証のセットアップ

Prime Infrastructure の実装に保証ライセンスが含まれている場合は、NAM および NetFlow の設定を介してデータ収集を有効にする必要があります。これは、保証によって提供される追加のダッシュレット、レポート、その他の機能を取り込むために必要です。

関連項目

- [NAM データ収集の有効化](#)
- [NAM ポーリング パラメータの定義](#)
- [NetFlow データ収集の有効化](#)

NAM データ収集の有効化

ネットワーク解析モジュール(NAM)からデータを収集できるようにするには、NAM データ収集を有効にする必要があります。これは、検出されたまたは追加した各 NAM に実行するか、またはすべての NAM に同時に実行することで行えます。

はじめる前に

各 NAM の HTTP/HTTPS クレデンシャルを指定する必要があります(「[NAM HTTP/HTTPS クレデンシャルの追加](#)」を参照)。

-
- ステップ 1 [サービス (Services)] > [アプリケーションの可視性と制御 (Application Visibility & Control)] > [データ ソース (Data Sources)] の順に選択します。
 - ステップ 2 [NAM データ コレクタ (NAM Data Collector)] セクションで、データ収集を有効にする NAM データ ソースを選択します。
 - ステップ 3 [有効 (Enable)] をクリックします。
-

関連項目

- [NAM ポーリング パラメータの定義](#)
- [NetFlow データ収集の有効化](#)

NAM ポーリング パラメータの定義

NAM から収集するデータを指定できます。

-
- ステップ 1 [モニタ (Monitor)] > [モニタリングポリシー (Monitoring Policies)] を選択します。
 - ステップ 2 [追加 (Add)] をクリックし、左側のサイドバー メニューの [ポリシータイプ (Policy Types)] リストから [NAM の状態 (NAM Health)] を選択します。
 - ステップ 3 データを収集する NAM デバイスを選択し、必要なフィールドに入力します。

- ステップ 4 [パラメータとしきい値(Parameters and Thresholds)] で、NAM デバイスからポーリングするパラメータとしきい値条件を指定します。
- ステップ 5 [保存してアクティブにする(Save and Activate)] をクリックします。

関連項目

- [NetFlow データ収集の有効化](#)
- [NAM データ収集の有効化](#)

NetFlow データ収集の有効化

NetFlow と Flexible NetFlow データの収集を開始するには、Prime Infrastructure にデータをエクスポートするように NetFlow 対応のスイッチ、ルータ、その他のデバイス (ISR/ASR) を設定する必要があります。次の表は、NetFlow 対応の各種デバイス、および NetFlow データを Prime Infrastructure にエクスポートするためのデバイスの設定方法を示しています。

表 5-1 には NetFlow サポート サマリーの詳細が記載されています。

表 5-1 NetFlow サポート サマリー

デバイス タイプ	NetFlow をサポートしている IOS バージョン	サポートされる NetFlow エクスポート タイプ	Prime Infrastructure での NetFlow の設定	テンプレートの命名規則
Cisco ASR	IOS XE 3.11 ~ 15.4(1) S 以降 Easy PerfMon ベースの構成 (EzPM)	TCP/UDP カンバセーション トラフィック アプリケーション応答時間 (ART) 音声とビデオ HTTP URL 可視性 アプリケーション トラフィック統計	[サービス (Services)] > [アプリケーションの可視性と制御 (Application Visibility & Control)] > [インターフェイスの設定 (Interfaces Configuration)] の順に選択。 形式: V9 および IPFIX	Netflow-Traffic-Conv- Netflow-App-Traffic- Netflow-Traffic-Voice-Video- - Netflow-URL- Netflow-Aggregated-Traffic- Stats-
	IOS XE 3.9、3.10	TCP/UDP カンバセーション トラフィック アプリケーション応答時間 (ART) 音声とビデオ HTTP URL 可視性 AVC トラブルシューティング	[サービス (Services)] > [アプリケーションの可視性と制御 (Application Visibility & Control)] > [インターフェイスの設定 (Interfaces Configuration)] の順に選択。 形式: V9 および IPFIX	Netflow-Traffic-Host- Netflow-App-Traffic- Netflow-Voice-Video- Netflow-URL- Netflow-AVC-Troubleshooting-

表 5-1 NetFlow サポート サマリー(続き)

デバイス タイプ	NetFlow をサポー トしている IOS バージョン	サポートされる NetFlow エクスポー トタイプ	Prime Infrastructure での NetFlow の設定	テンプレートの命名規則
Cisco ISR	15.1(3)T	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック 音声とビデオ	TCP/UDP:[設定 (Configuration)]>[テンプレ ート(Templates)]>[機能およ びテクノロジー(Features & Technologies)]>[CLI テン プレート(CLI Templates)]>[シ ステム テンプレート - CLI (System Templates - CLI)]>[ト ラフィックの統計情報の収集 (Collecting Traffic Statistics)]の 順に選択。 音声ビデオ: Medianet Perfmon CLI テンプレートを使用。[設 定(Configuration)]>[テン プレート(Templates)]>[機能 およびテクノロジー(Features & Technologies)]>[CLI テン プレート(CLI Templates)]>[シ ステム テンプレート - CLI (System Templates - CLI)]> [Medianet - PerfMon] の順に 選択。 形式: V9	Netflow-Traffic-Conv- Netflow-Voice-Video-
	IOS XE 3.11 ~ 15.4(1) S 以降 Easy PerfMon ベー スの構成 (EzPM)	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック アプリケーション応 答時間(ART) 音声とビデオ HTTP URL 可視性 アプリケーショント ラフィック統計	[サービス(Services)]>[アプ リケーションの可視性と制御 (Application Visibility & Control)]>[インターフェイ スの設定(Interfaces Configuration)]の順に選択。 形式: V9 および IPFIX	Netflow-Traffic-Conv- Netflow-App-Traffic- Netflow-Traffic-Voice-Video - Netflow-URL- Netflow-Aggregated-Traffic- Stats-
	IOS XE 3.9、3.10	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック アプリケーション応 答時間(ART) 音声とビデオ HTTP URL 可視性 AVC トラブルシュー ティング	[サービス(Services)]>[アプ リケーションの可視性と制御 (Application Visibility & Control)]>[インターフェイ スの設定(Interfaces Configuration)]の順に選択。 形式: V9 および IPFIX	Netflow-Traffic-Host- Netflow-App-Traffic- Netflow-Voice-Video- Netflow-URL- Netflow-AVC-Troubleshooti ng-

表 5-1 NetFlow サポート サマリー(続き)

デバイス タイプ	NetFlow をサポ ートしている IOS バージョン	サポートされる NetFlow エクスポー トタイプ	Prime Infrastructure での NetFlow の設定	テンプレートの命名規則
Cisco ISR G2	15.1(4) M および 15.2(1) T	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック アプリケーション応 答時間 (ART) 音声とビデオ	TCP/UDP、ART:MACE CLI テ ンプレートを作成。ISR デバ イスにおける NetFlow の設定 を参照してください 音声ビデオ: Medianet Perfmon CLI テンプレートを使用。[設 定(Configuration)] > [テンプ レート(Templates)] > [機能お よびテクノロジー(Features & Technologies)] > [CLI テンプ レート(CLI Templates)] > [シ ステム テンプレート - CLI (System Templates - CLI)] > [Medianet - PerfMon] の順に 選択。 形式: V9	Netflow-Traffic-Conv- Netflow-App-Traffic- Netflow-Voice-Video-
	15.2(4) M および 15.3(1) T	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック アプリケーション応 答時間 (ART) 音声とビデオ	[サービス (Services)] > [アプ リケーションの可視性と制御 (Application Visibility & Control)] > [インターフェイ スの設定 (Interfaces Configuration)] の順に選択。 形式: V9 および IPFIX	Netflow-Traffic-Conv- Netflow-App-Traffic- Netflow-Voice-Video-
	15.4(1)T 以降 Easy PerfMon ベー スの構成 (EzPM)	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック アプリケーション応 答時間 (ART) 音声とビデオ HTTP URL 可視性	[サービス (Services)] > [アプ リケーションの可視性と制御 (Application Visibility & Control)] > [インターフェイ スの設定 (Interfaces Configuration)] の順に選択。 形式: V9 および IPFIX	Netflow-Traffic-Conv- Netflow-App-Traffic- Netflow-Traffic-Voice-Video - Netflow-App-Traffic-URL-
Cisco Catalyst 2000	15.0(2) UCP 以降	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック	カスタム CLI テンプレートを 作成。Catalyst 2000 スイッチに おける NetFlow エクスポート の設定を参照してください。 形式: V5、V9	Netflow-Traffic-Conv-
Cisco Catalyst 3750-X、 3560-X	15.0(1)SE IP ベースまたは IP サービス フィー チャセット、およ びネットワーク サービス モジュー ルを装備。	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック	カスタム CLI テンプレートを 作成。Catalyst 3000、4000、 6000 スイッチ ファミリーにお ける NetFlow の設定を参照し てください。 形式: V9	Netflow-Traffic-Conv-

表 5-1 NetFlow サポート サマリー(続き)

デバイス タイプ	NetFlow をサポー トしている IOS バージョン	サポートされる NetFlow エクスポー トタイプ	Prime Infrastructure での NetFlow の設定	テンプレートの命名規則
Cisco Catalyst 3850(有線)	15.0(1)EX 以降	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック 音声とビデオ	TCP/UDP: カスタム CLI テン プレートを作成。 Catalyst 3000、4000、6000 スイッチ ファミリーにおける NetFlow の 設定 を参照してください 音声ビデオ: Medianet Perfmon CLI テンプレートを使用。[設 定(Configuration)] > [テンプ レート(Templates)] > [機能お よびテクノロジー(Features & Technologies)] > [CLI テンプ レート(CLI Templates)] > [シ ステム テンプレート - CLI (System Templates - CLI)] > [Medianet - PerfMon] の順に 選択。 形式: V9	Netflow-Traffic-Conv- Netflow-Voice-Video-
Cisco Catalyst 3850(ワイ ヤレス)	Cisco IOS XE Release 3SE (Edison)	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック	「 Configuring Flexible NetFlow 」を参照。 形式: V9	Netflow-Traffic-Conv-
Cisco CT5760 コ ントローラ (ワイヤ レス)	Katana 5760	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック	「 Application Visibility and Flexible Netflow 」を参照。 形式: V9	Netflow-Traffic-Conv-
Cisco Catalyst 4500	15.0(1)XO および 15.0(2)SG 以降	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック 音声とビデオ	TCP/UDP: カスタム CLI テン プレートを作成。 Catalyst 3000、4000、6000 スイッチ ファミリーにおける NetFlow の 設定 を参照してください。 音声ビデオ: Medianet Perfmon CLI テンプレートを使用。[設 定(Configuration)] > [テンプ レート(Templates)] > [機能お よびテクノロジー(Features & Technologies)] > [CLI テンプ レート(CLI Templates)] > [シ ステム テンプレート - CLI (System Templates - CLI)] > [Medianet - PerfMon] の順に 選択。 形式: V9	Netflow-Traffic-Conv- Netflow-Voice-Video-

表 5-1 NetFlow サポート サマリー(続き)

デバイス タイプ	NetFlow をサポ ートしている IOS バージョン	サポートされる NetFlow エクスポー トタイプ	Prime Infrastructure での NetFlow の設定	テンプレートの命名規則
Cisco Catalyst 6500	15.1(1)SY 以降	TCP/UDP カンバセー ション トラフィック 音声とビデオ	TCP/UDP: カスタム CLI テン プレートを作成。Catalyst 3000、4000、6000 スイッチ ファミリーにおける NetFlow の 設定を参照してください。 音声ビデオ: Medianet Perfmon CLI テンプレートを使用。[設 定(Configuration)] > [テンプ レート(Templates)] > [機能お よびテクノロジー(Features & Technologies)] > [CLI テンブ レート(CLI Templates)] > [シ ステム テンプレート - CLI (System Templates - CLI)] > [Medianet - PerfMon] の順に 選択。 形式: V9	Netflow-Traffic-Conv- Netflow-Voice-Video-

Catalyst 2000 スイッチにおける NetFlow エクスポートの設定

手動で Catalyst 2000 デバイスに NetFlow エクスポートを設定するには、次の手順に従って、ユーザ定義の CLI テンプレートを作成します。

- ステップ 1 [設定(Configuration)] > [テンプレート(Templates)] > [機能およびテクノロジー(Features & Technologies)] > [CLI テンプレート(CLI Templates)] > [CLI] の順に選択します。
- ステップ 2 情報アイコンの上にマウス カーソルを移動し、[新規(New)] をクリックして新しい CLI テンプレートを作成します。
- ステップ 3 新しい CLI テンプレートの名前を入力します(例: Prime_NF_CFG_CAT2K)。
- ステップ 4 [デバイスタイプ(Device Type)] リストから、[スイッチおよびハブ(Switches and Hubs)] を選択します。
- ステップ 5 [テンプレート詳細(Template Detail)] > [CLI コンテンツ(CLI Content)] テキスト ボックスに以下のコマンドを入力し、各自のネットワークの必要に応じてそれらを変更します(これらのコマンドは一例にすぎません)。

```
flow record PrimeNFRec
 match ipv4 protocol
 match ipv4 source address
 match ipv4 destination address
 match transport source-port
 match transport destination-port
 collect counter bytes long
 collect counter packets long
!
!
flow exporter PrimeNFExp
 destination 172.18.54.93
 transport udp 9991
```

```

option exporter-stats timeout 20
!
!
flow monitor PrimeNFMon
record PrimeNFRec
exporter PrimeNFExp

interface GigabitEthernet3/0/1
ip flow monitor PrimeNFMon input

```

- ステップ 6** [新しいテンプレートとして保存 (Save as New Template)] をクリックします。テンプレートを保存したら、デバイスにそれを展開します(「[機能レベルの設定テンプレートの作成](#)」を参照)。

Catalyst 3000、4000、6000 スイッチ ファミリにおける NetFlow の設定

Catalyst 3000/4000/6000 デバイスに手動で NetFlow を設定して TCP および UDP トラフィックをエクスポートするには、次の手順に従って、ユーザ定義の CLI テンプレートを作成します。

- ステップ 1** [設定 (Configuration)] > [テンプレート (Templates)] > [機能およびテクノロジー (Features & Technologies)] > [CLI テンプレート (CLI Templates)] > [CLI] の順に選択します。
- ステップ 2** 情報アイコンの上にマウス カーソルを移動し、[新規 (New)] をクリックして新しい CLI テンプレートを作成します。
- ステップ 3** 新しい CLI テンプレートの名前を入力します(例:「Prime_NF_CFG_CAT3K_4K」)。
- ステップ 4** [デバイス タイプ (Device Type)] リストから、[スイッチおよびハブ (Switches and Hubs)] を選択します。
- ステップ 5** [テンプレート詳細 (Template Detail)] > [CLI コンテンツ (CLI Content)] テキスト ボックスに以下のコマンドを入力し、各自のネットワークの必要に応じてそれらを変更します(これらのコマンドは一例にすぎません)。

```

flow record PrimeNFRec
match ipv4 protocol
match ipv4 source address
match ipv4 destination address
match transport source-port
match transport destination-port
collect counter bytes long
collect counter packets long
!
!
flow exporter PrimeNFExp
destination 172.18.54.93
transport udp 9991
option exporter-stats timeout 20
!
!
flow monitor PrimeNFMon
record PrimeNFRec
exporter PrimeNFExp

interface GigabitEthernet3/0/1
ip flow monitor PrimeNFMon input

```

- ステップ 6 [新しいテンプレートとして保存(Save as New Template)] をクリックします。テンプレートを保存したら、デバイスにそれを展開します(「機能レベルの設定テンプレートの作成」を参照)。

ISR デバイスにおける NetFlow の設定

ISR デバイスに手動で NetFlow を設定して MACE トラフィックをエクスポートするには、次の手順に従って、ユーザ定義の CLI テンプレートを作成します。

- ステップ 1 [設定(Configuration)] > [テンプレート(Templates)] > [機能およびテクノロジー(Features & Technologies)] > [CLI テンプレート(CLI Templates)] > [CLI] の順に選択します。
- ステップ 2 情報アイコンの上にマウス カーソルを移動し、[新規(New)] をクリックして新しい CLI テンプレートを作成します。
- ステップ 3 新しい CLI テンプレートの名前を入力します(例:「Prime_NF_CFG_MACE」)。
- ステップ 4 [デバイス タイプ(Device Type)] リストから、[ルータ(Routers)] を選択します。
- ステップ 5 [テンプレート詳細(Template Detail)] > [CLI コンテンツ(CLI Content)] テキスト ボックスに以下のコマンドを入力し、各自のネットワークの必要に応じてそれらを変更します(これらのコマンドは一例にすぎません)。

```
flow record type mace mace-record
collect application name
collect art all
!
flow exporter mace-export
destination <PI_SERVER_IP_ADDRESS>
source GigabitEthernet0/1
transport udp 9991
!

flow monitor type mace mace-monitor
record mace-record
exporter mace-export
cache timeout update 600

class-map match-all PrimeNFClass
match protocol ip
exit

policy-map type mace mace_global
class PrimeNFClass
flow monitor mace-monitor
exit
exit

interface GigabitEthernet 0/1
mace enable
```

- ステップ 6 [新しいテンプレートとして保存(Save as New Template)] をクリックします。テンプレートを保存したら、デバイスにそれを展開します(「機能レベルの設定テンプレートの作成」を参照)。